

置こはまでしょう!?



正解は…… ->

滋賀県多賀町

多賀町の9月下旬を代表する風景で 白いそばの花が満開のそば畑

多賀そばって知ってる?

多賀そばは、「JA東びわこ多賀そば部会」の15戸が栽培する多賀町の特産品です。毎年11月から収穫を行い、12月上旬には新そばとして多賀町内や近隣の飲食店で味わうことができます。



多賀そばのここがスゴイ!

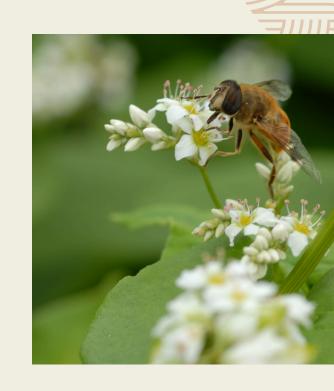
生産量がすごい!

関西でも指折りの作付面積と生産量を誇り、県内外から人気を集めています。

作付面積: 75ha

生産量:57t (令和5年度)

品種がすごい!



"玄そばの最高峰"と言われ、国内産そばの中でもとりわけ高値で取引されている品種「常陸秋そば」のみを栽培しています。口に含んだ時の甘みと鼻腔に広がる芳醇な香りが特に優れており、関西では珍しい品種です。

栽培がすごい!

多賀そばは、すべての生産者が無農薬栽培※を実施ししています。また、すべての生産者が滋賀県の環境こだわり農産物認証を受けているなど、人と環境にやさしい農業に徹底してこだわっています。

また、養蜂家から仕入れたミツバチによる自然受粉を行っており、高い受粉率により品質が安定するほか、多賀そばの花が咲く季節には、真っ白い花の風景を楽しむことができます。

※農薬として扱われない、微生物農薬を使用しています。

多賀そばの歴史

多賀町では、水稲を中心に転作作物として小麦や大豆の栽培を行ってきました。しかし、地理的に鳥獣害の発生という課題がありました。そこで昼夜の寒暖差が大きい等の中山間地域の気候条件に着目し、「そば」の栽培に取り組みました。

平成8年	多賀町の一部地域でそばの栽培を開始 作付面積: 0 . 2 ha
平成12年	多賀町農林商工課やJA、商工会、観光協会などが連携し、そばの産地として の育成方策を検討 作付面積:0.4ha
平成14年	栽培品種を「常陸秋そば」に統一 作付面積:6.3ha
平成15年	JA東びわこ多賀そば部会を結成。栽培基準を統一し、イベントでPR出店など を開始。 作付面積:20ha
平成17年	ミツバチによる受粉技術を本格導入 作付面積:40ha
平成18年	栽培面積が滋賀県で最大の面積となる 作付面積:54ha
平成19年	JA東びわこがそば専用の乾燥調製施設を竣工。滋賀県環境こだわり農産物そば栽培の認証を多賀町全域のそば生産者が受ける。 作付面積:69ha
平成20年	全国そば生産優良地区表彰で「全国農業協同組合中央会会長賞」を受賞し、 全国のそば特産地の仲間入りをする。 作付面積:80.7ha
平成23年	栽培面積が過去最大となる 作付面積:85.2ha
平成30年	開花時期に25年振りの「非常に強い」勢力の台風が直撃し、甚大な被害を 受ける。 作付面積:74.8ha

多賀町特産物振興連絡協議会 JA東びわこ多賀そば部会